

黒岳地域は、昭和9年（1934年）に指定された阿蘇国立公園（現在の阿蘇くじゅう国立公園）内にあり、そのほとんどは落葉広葉樹の自然林におおわれ、くじゅう地域では最も優れた森林景観の山とされています。

近年、自然志向の高まりや名水ブームを背景にして、黒岳の利用者は激増しています。そこで、くじゅう黒岳地域の自然について、保護と利用のあり方を通じてみんなで考えてみましょう。

清らかな黒岳の名水はどこからくる？

黒岳の清らかな水は、環境庁の名水百選の「男池湧水群」に指定されています。

近年の名水ブームもあって、黒岳地域の名水を求める人の列は1年中あつとを絶ちません。それでも、黒岳山麓の湧水群は、年間を通して湧水量が安定していて、乾燥期でも涸れることはなく阿蘇野川に注がれ、川の水量を確保しています。

この水は、いったいどこからきているのでしょうか？

黒岳地域の男池や白水に湧出する地下水は、降水が森林の地下に滞留して湧き出たものです。豊かな水は、豊かな森に育まれているといわれます。それは、森が雨水を蓄えてダムのような働きをしているからです。

もし森林がなければ、降った雨は一気に河川に流れ込んで洪水となったり、水が蓄えられないと渇水になったりするかもしれません。

清らかな水を守るために森の保全は不可欠です。また、森林と清流は自然景観を構成する重要な要素でもあります。

黒岳の自然と自然林の価値が、水を通して再認識されるのではないのでしょうか。



阿蘇野川上流



黒岳かくし水上辺で

黒岳の自然はどのように利用されているの？

近年、自然志向の高まりもあって登山者やレジャー客などの利用者が増加するにつれて、黒岳地域の自然環境に与える影響も考えなければなりません。

黒岳は、「日本の自然 100 選」に指定されている通り自然が豊かです。

しかし、男池周辺の整備された利用道以外に立入ることにより、踏みつけによる植物の被害が広がったり、悪質な侵入者によるツクシシャクナゲなど貴重種の盗掘があると聞かれるのがとても残念です。

昆虫の乱獲により、谷に倒れた朽木がいたるところで砕かれているため、朽木をすみかにしている沢山の昆虫がすみかを失ってしまうとも聞かれます。人の過激な立入りや夜間の照明が、昆虫の生息環境を脅かす要因にもなっています。自然環境保全への配慮と、昆虫マニアのマナー向上が望まれます。

また、利用者がゴミ、残飯を放置すると、黒岳に生息するタヌキ、キツネ、ネズミ類などの生息環境を悪化させる要因にもなります。

私たちは、わたしたちの子どもや孫たちも、この豊かな自然環境を持った黒岳に親しむことができるように、やさしく付き合っていかなければなりません。